

## C-75 女子大生の着装に関する実証的研究

— 流行に関して質問紙にあらわれた2,3の問題について —

共立女子短大家政 ○市橋洋子 新野静枝

目的 流行に関する研究は、社会心理学、文化心理学の立場で行われているが、流行には、さまざまな条件、態度、経路などが問題となる。同時に、流行に関心をむけるにいたった相手（対象）の人格、ならびに本人の人格を無視することはできない。したがって流行は人的、物的コミュニケーションの交錯が重要な要因と考えられる。また、時代の推移による変化が流行を促進させることになる。流行をいかに受容するかは、その人のさまざまな心理によるものである。本研究は、このような観点から、服装の流行についての心理的側面を把握することによって、被服構成実習指導上の参考にすものである。

方法 28項目からなる質問紙を作成し、多肢選択法および自由記入法によって調査した。対象は共立女子短大家政科学学生312名、同文科学学生220名、および日本女子衛生短大学生137名、神奈川歯科大女子29名、計700名である。

結果 調査の結果に基づき、下記に示す三つの項目に整理して考察をし、若干の資料を得たので報告する。

- 1) 流行に関心をむけ影響された相手
- 2) 流行を妨害する個人要因
- 3) 服装とパーソナリティ